

4. 看護行事

(1) 看護の日記念行事

ナイチンゲールが生誕した5月12日（看護の日）にちなんで、5月9日～12日の4日間、「看護の日・看護週間」記念行事を開催し、患者および家族、一般の方に看護に気軽にふれていただいた。

- 1) 白衣の変遷 看護部より、写真による白衣の変遷と、明治・大正・昭和時代の白衣を5月9日～12日の間、正面玄関エントランスホールに展示した。
- 2) 作品展示 入院生活で感じたことの俳句や川柳、詩、似顔絵などを募集した。患者や家族から17作品と、院内学級（大阪府立刀根山支援学校）の生徒から15作品の提供があり、5月9日～12日の間、正面玄関エントランスホールに展示した。また、地域住民や協力者からの作品の展示も同時に行った。
- 3) 指編み教室 5月11日に正面玄関エントランスホールにて、指編み「ニットたわし」の実演と体験教室を開催し、参加者は毛糸を使ってミニたわしを編み上げ、持ち帰られた。
- 4) ふれあい看護体験 日本看護協会主催のふれあい看護体験として、5名の高校生を受け入れた。手指衛生の演習など感染対策の講習の後、外来やベッドセンター、ドクターヘリなど院内の見学を行い、昼食には病院食を試食した。病棟では看護師の指導の下に血圧測定、車椅子による移送介助、入浴の介助、清拭、足浴、洗髪などを体験した。参加者から、「医療の場ではチームワークがとても大切だと学べた。」、「ありのままの現場を見せてもらい、看護師の仕事の理解が深まった。」、「看護師がとても楽しそうに働いている姿を見て、看護師という仕事に就こうかなと思った。」、「患者さんからの感謝の言葉が嬉しく、看護師になりたい気持ちが高まった。」、「患者さんとふれあうことができとても良い経験になった。担当してくれた看護師さんのようになりたい。」などの感想が寄せられた。

〈看護体験スケジュール〉

時 間	項 目
8:50～	白衣に更衣
9:00～	オリエンテーション
9:20～	手洗い演習などの感染対策講習
10:10～	院内見学（外来、ドクターヘリ、ベッドセンターなど）
11:30～	看護部長挨拶
11:45～	昼食として病院食の試食
13:00～	病棟での看護体験
15:15～	ミーティング、アンケート記入
16:00～	看護部長より「参加証」授与
16:20	更衣後終了



体験の様子

5. 阪大病院フォーラム

本院は、先進医療推進など特定機能病院としての役割はもとより、地域の中核病院としての役割も果たしている。このような状況において、本院がより一層の発展をするためには、重要なトピックスや取り組み等について関係者に広く情報を提供し、意見を交換し、多くの理解と支援を得ることが肝要と考える。このため、その時々トピックスを中心にしたフォーラムを平成14年度から開催しており、病院内外から多数の人が参加している。

平成29年度開催分

開催回 年月日	テーマ・主な内容
第171回 平成29年 4月26日	(防火・防災) 「防災訓練を振り返って平成28年度防災訓練の検証結果から…/病院BCP(事業継続)について(大地震時(その1))」 災害対策室 特任研究員 梅田 幸治 災害対策室長補佐・管理課 課長補佐 前本 康央
第172回 平成29年 6月15日	(医療機器・医薬品安全講習会) 「第1回 医療機器・医薬品安全講習会」 臨床工学部臨床工学技士 山中 智裕 薬剤部薬剤主任 有持 潤子
第173回 平成29年 10月12日	(医療機器・医薬品安全講習会) 「第2回 医療機器・医薬品安全講習会」 臨床工学部臨床工学技士 田中勇真 薬剤部薬剤師 衣笠 裕香
第174回 平成29年 11月29日	(医療訴訟) 「医療訴訟ガイダンス」 大阪地裁 裁判長 山地 修 大阪地裁 裁判官 杉本 敏彦 大阪地裁 裁判官 藪田 貴史 大阪地裁 裁判官 若林 慶浩

第 175 回 平成 29 年 12 月 13 日	(HIV) 「HIV 医療体制の 20 年と今後に期待すること」 特定非営利活動法人ネットワーク 医療と人権<MERS>理事長 若生治友
第 176 回 平成 29 年 12 月 26 日	(保険診療関係) 平成 30 年度診療報酬改定の動向 ～阪大病院はいかに対応するか 現状と 課題～ 一般社団法人日本血液製剤機構 (J B) 事業戦略部参事 谷澤 正明
第 177 回 平成 30 年 2 月 1 日	(防火・防災) 2017 防災訓練を振り返って 災害対策室 特任研究員 梅田 幸治
第 178 回 平成 30 年 2 月 15 日	(医療機器・医薬品安全講習会) 「第 3 回 医療機器・医薬品安全講習会」 放射線部 診療放射線技師 垂脇 博之 薬剤部 薬剤主任 宮脇 康至
第 179 回 平成 30 年 3 月 1 日	(保険診療関係) 全ての医療職種のための高齢者総合評価 について 老年・高血圧内科 助教 赤坂 憲 平成 30 年度診療報酬改定に向けての阪大 病院の取り組み 株式会社ニチイ学館医療関連事業本部 事業推進部事業推進課 課長 (国際医療福祉大学大学院 非常勤講師) 渋谷 英一

6. 心肺蘇生研修

医師及び看護師への心肺蘇生教育として、心停止を含めた急変患者への対応を学ぶための二次救命処置 (ACLS) 講習を年 5 回定期開催している。初期研修医に対しては 4 月の研修開始オリエンテーションにおいて同様の講習を全員に対して行い、その後研修部署に配属されている。また新人看護師については、一次救命処置講習 (BLS、AED を含む) を就職早期に全員に行っている。また各部署単位で、定期的に急変対応のシミュレーショントレーニングを行っている。医師、看護師以外の医療従事者に対する一次救命処置講習も定期的に行っている。

院内各所に自動体外式除細動器 (AED) が配備されており、医療従事者以外の院内職員、医療ボランティアに対する、第一発見者のための一次救命処置講習会 (PUSH 講習会) を定期開催している。